

令和 7（2025）年度 卒業時アンケートの集計結果報告（短期大学部）

2026 年 5 月 20 日

IR 推進室

実施期間 2026 年 2 月 4 日から 3 月 13 日まで

実施方法 Google フォーム

対象者：2024 年度生

幼児保育学科 51 名 介護福祉学科 11 名

2024 年度生の短期大学部 63 名に調査を実施し、回答率 98.4%を得た、この結果から本学における 2 年間の学生生活の満足度を検討していく。

全体的な学生生活に対する満足度に関する質問【2】～【4】について

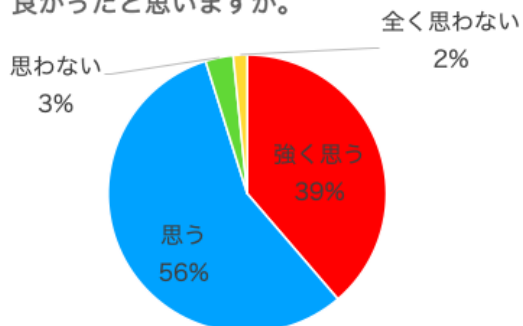
【2】「あなたは、本学に入学してよかったと思いますか」

【3】「入学から卒業までの学校生活は充実していたと思いますか」

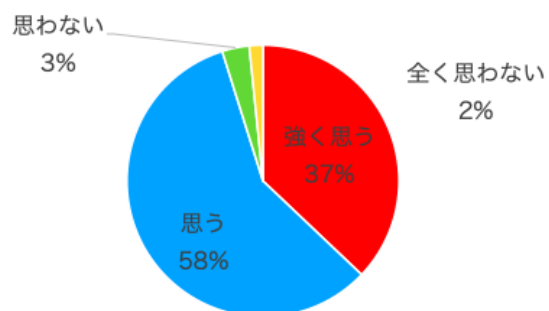
【4】「あなたは卒業後の進路に満足していますか」

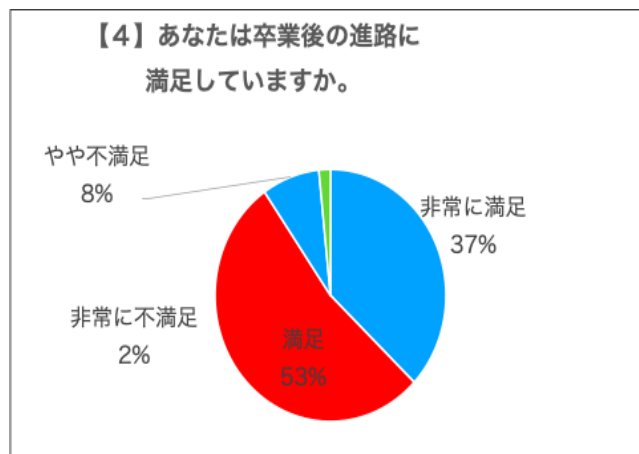
質問【2】から【4】において、「強く思う（非常に満足）」もしくは「思う（満足）」の占める割合が、すべての質問項目で、90%（前年度 94%）以上となり、「全く思わない（非常に不満足）」も 2%であったことから、学生が 2 年間の学校生活に満足している様子が読み取れる。しかしながら、「強く思う（非常に満足）」の占める割合は、40%以下であり、今後も満足度を高めるために短期大学部として取り組みを進める必要がある。

【2】 あなたは、本学に入学して
良かったと思いますか。



【3】 入学から卒業までの学生生活は
充実していたと思いますか。





学修成果、自身の成長へのカリキュラムの有用性に関する質問

【5、7】及び【8】について

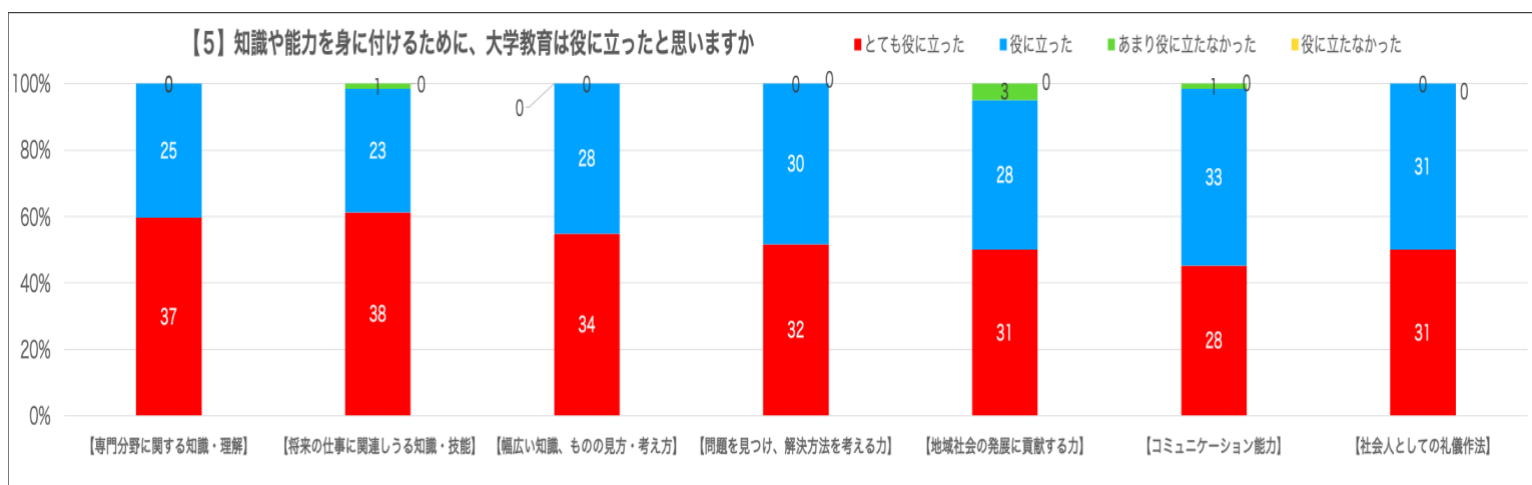
【5】「知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立ったと思いますか」

【7】「在学中に参加した行事について、その経験は新たな気づきや学び、自分の成長のために役立つものでしたか」

【8】「本学で実施した次の資格・免許取得に関する事前事後教育や就職支援について、その経験は役に立ったと思いますか」

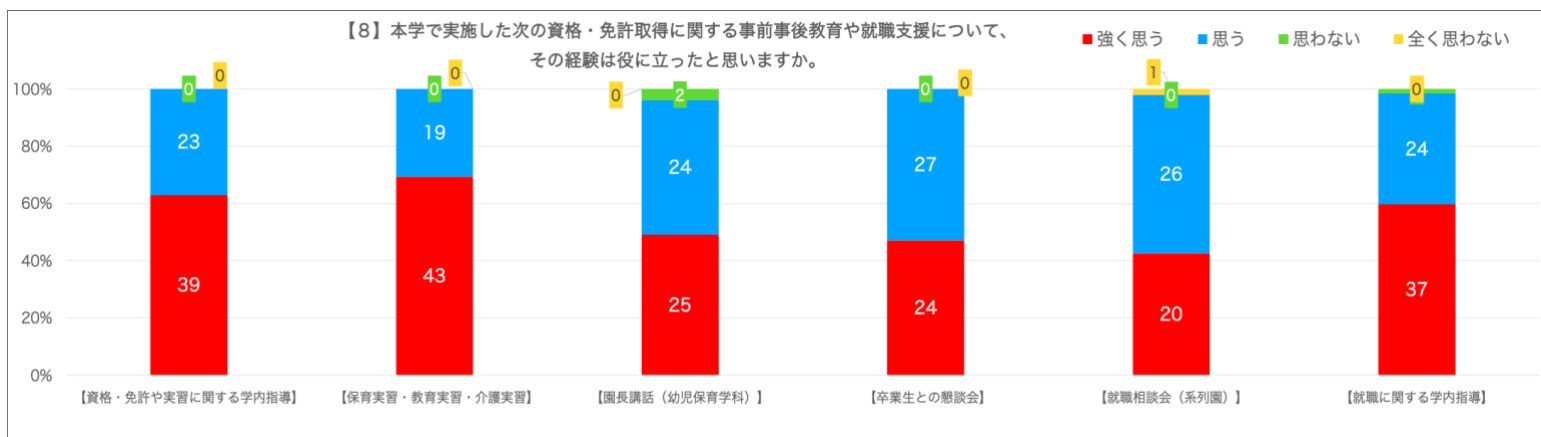
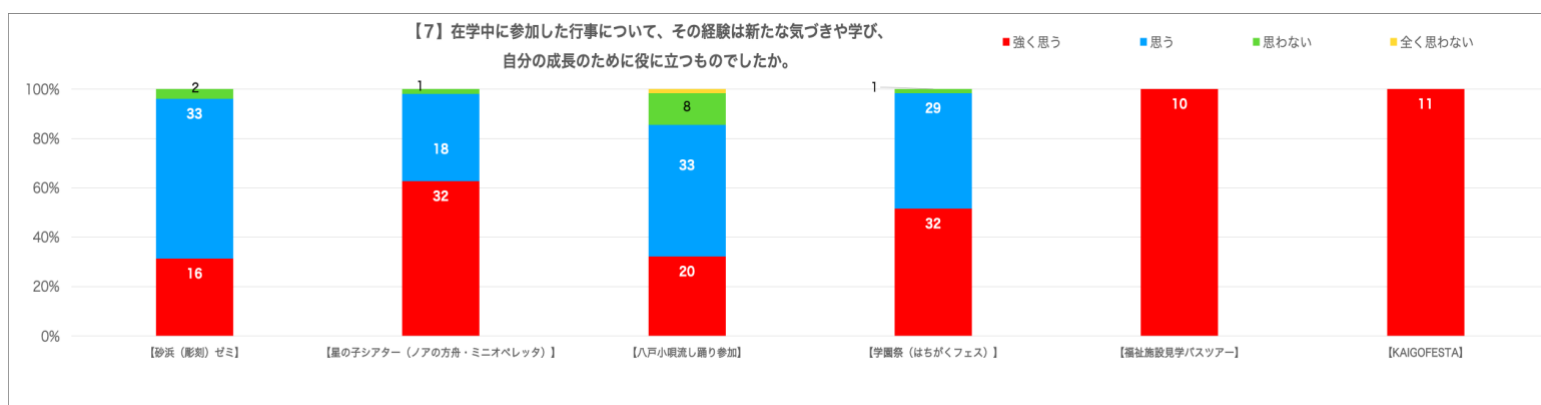
※上記の【7】【8】の質問項目の結果は、「経験していない」との回答数、さらに「未経験」で回答すべきでない項目への回答について、所属学科から判断し「経験していない」と再集計し分母から除外している。

質問【5】のカリキュラムの有用性では、「とても役立った」「役立った」の占める割合が、すべての項目で 95%以上（前年同様）となった。「とても役立った」>「役立った」（図表中、赤の方が青より高い）項目は、「コミュニケーション能力」以外のすべてとなり、学生は学修成果の獲得に対するカリキュラムの有用性を実感していることが読み取れる。



質問【7】の各学科の行事の有用性では、「強く思う」「思う」の占める割合が、「八戸小唄流し踊り」を除き、すべての行事で95%以上となり、「八戸小唄流し踊り」も85%であり、どの行事も学生の貴重な経験になっていることが読み取れる。

一方、「強く思う」>「思う」（図表中、赤の方が青より高い）項目は、「星の子シアター」「学園祭」「福祉施設見学バスツアー」「KAIGOFESTA」となった。今後も学科として、行事担当者との協働・サポート体制を整え、内容・方法の工夫を続け、学生の自己成長の実感に結び付けられるよう検討していくことが必要であると考えられる。



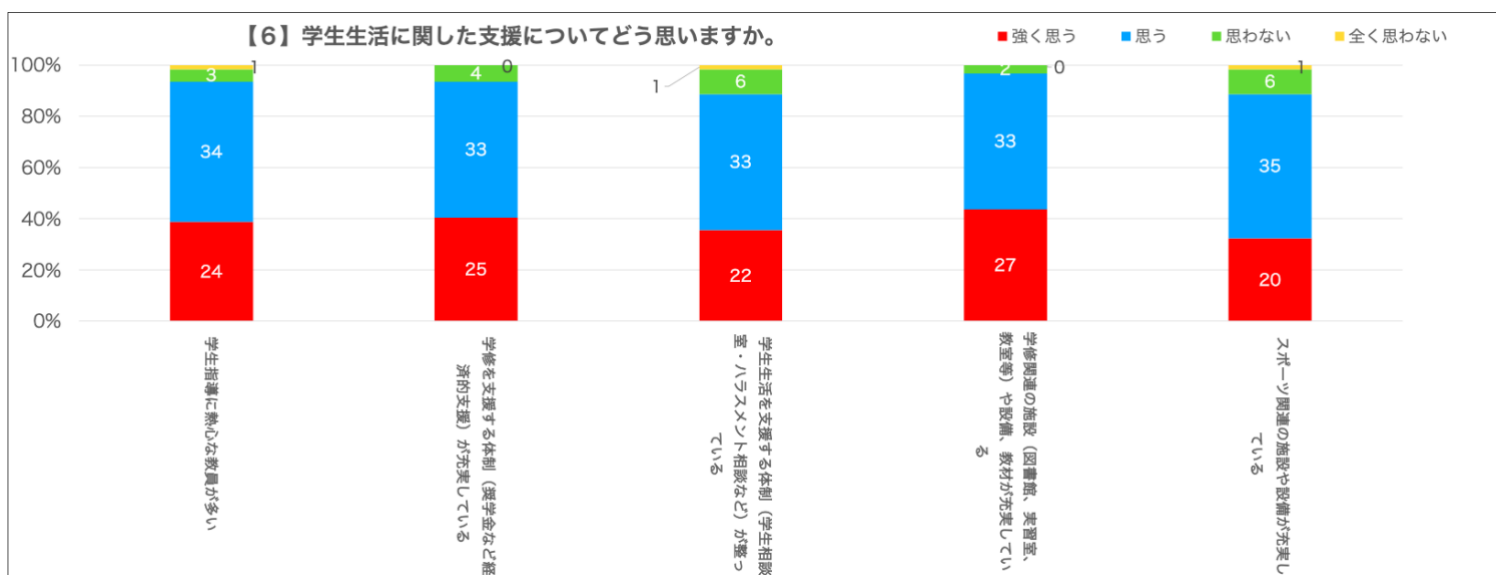
質問【8】の資格・免許取得に関する事前事後教育や就職支援の有用性では、「強く思う」「思う」の占める割合が、すべての項目で96%以上となり、概ねその有効性が読み取れる。とくに「資格・免許や実習に関する学内指導」「保育実習・教育実習・介護実習」「卒業生との懇談会」「就職に関する学内指導」は100%であることから、本学のカリキュラムが専門家としての現場の実践力の向上に注力し取り組んできた成果であるが読み取れる。一方で「思う」より「強く思う」の割合が高い（図表中、赤の方が青より高い）項目は、「資格・免許や実習に関する学内指導」「保育実習・教育実習・介護実習」「園長講話」「就職に関する学内指導」であり、今後もより学生のニーズに応じられるよう、その内容の検討を進

めカリキュラムの質の向上に努める必要も感じ取れる。

2年間の学生生活を支える支援体制の充実に関する質問【6】について

【6】「学生生活に関した支援についてどう思いますか」

質問【6】の学生生活の支援体制の充実では、「強く思う」「思う」の占める割合が、すべての項目で88%以上であり（前年度同様）、概ね学生は支援体制について充実していることが読み取れる。一方で、「強く思う」>「思う」（図表中、赤の方が青より高い）項目は、ひと項目もない。支援体制の充実に向けた取り組みを鋭意進めていく必要性が窺える。とりわけ、人的な支えとして、教員の存在・相談体制について「学生指導に熱心な教員が多い」「学生生活を支援する体制（奨学金など経済的支援）が充実している」「学生生活を支援する体制（学生相談室・ハラスメント相談など）が整っている」学修関連の施設（図書館、実習室、教室等）や設備、教材が充実しているスポーツ関連の施設や設備が充実している



2年間の学生生活の満足度に関する質問【9】について

【9】あなたは本学への進学を誰かに勧めたいと思いますか

質問【2】から【4】と同様に「強く思う」「思う」の占める割合が、84%（前年度 86%）となっており、質問【9】からも、学生の学生生活の満足度が高いことが読み取れる。しかしながら、【2】から【4】と比較して「強く思う」の割合は最大で11ポイント減少していることから、誰かに勧めるということを考えると、学生は、より厳しい視点から本学全体を見つめている可能性も窺える。「思わない」「全く思わない」の割合16%（前年度同様）について、その要因について、学科での協議、自由記述等から同定し今後も高等教育機関としての質向上に努めていきたい。

